特集・西三河の方言

ぐとぐをつなぐ郷土の言葉

まっと、みんなして しゃべうまい

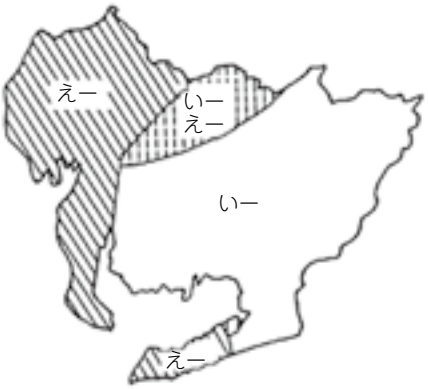
隔月で連載しています「西三河の方言」、いつもは4分の1ページの小欄ですが、それでも、私たちのふるさと幸田の言葉で皆さんの心が温まるよう、毎回一語ずつ季節感のある話題に絡めて紹介させていただいています。

今回は、特集ということで、4ページもいただきました。前半では、これまで紙面の関係で描くことができなかった西三河の方言の「正体」を皆さんに明かしたいと思います。

私たちの言葉は名古屋弁ではない

私たちが話すこの地方の言葉を、私たちは「三河弁」と呼びます。でも、はたから見れば、愛知イコール名古屋。愛知県では、どこでも名古屋弁を話すと思われています。徳川家康が名古屋弁で話す時代劇もありましたし、東京に行って「なんだ、おまえ、愛知か。じゃあ名古屋弁でしゃべってみろよ」といわれ困った人も少なくないと思います。全国的に三河弁の知名度は、ゼロに等しいかもしれません。

「良い」の勢力図（昭和30年代）



愛知県教育委員会「愛知県の方言」より

私たちの言葉は、名古屋弁とは絶対に違いますよね。何が違うか。名古屋弁で代表される「やっとかめ」など、三河でも使われる言葉は少なくありませんが、全く違うものも多いのです。例えば「良い」、尾張では「えー」といいますが、三河では大抵「いー」といいます。ただ、「いい加減」だけは、三河でも「えーころ」といいます。「いー」は東日本（関東）で使われ、「えー」は西日本（関西）で使われますので、「えーころ」は、一つの言葉として「えー」の尾張から「いー」の三河へ伝わったものだと分かります。

次に「居る」、東日本では「いる」、西日本では「おる」といいますが、こちらは、三河でも尾張でも「おる」で、静岡県に入ると「いる」というようになります。つまり、ここ愛知県は、東西日本の言葉の境界にあり、東日本の傾向がより強いのが三河弁、西日本の傾向がより強いのが名古屋弁なのです。

語彙（ごい）以上に違うのが、抑揚（よくよう）（イントネーション）です。例えば「待っとって」、名古屋弁では「と」にアクセントがありますが、三河弁では「ま（待）」です。やはりイントネーションも、名古屋弁は西日本の傾向が強く、三河弁は東日本の傾向が強いのです。

以前、岡崎を舞台にして話題になったテレビドラマがありました。楽しみに視聴してみると、言葉は三河弁でもイントネーションがどうもおかしい。それもそのはず、名古屋出身の女優さんがいたのです。

西三河「じゃん・だら・りん」東三河「のん・ほい・だに」

「じゃん・だら・りん」といえば、三河弁の代名詞ですが、実はこれ、この地方、西三河の方言を表したものです。豊橋などの東三河は「のん・ほい・だに」といわれ、三河弁でも、浜松などの遠州弁に近いといわれます。「～じゃん」や「～りん」は、豊橋でも使われますが、この地方でいう「のど渇いたら」を豊橋では「渇いたら」といいます。一方、豊橋でいう「今日も暑いのん」をこの地方では「暑いのー」といい、

「まー夏だに」は「夏だわ」になります。また、「どとろい」や「ど嫌」など、形容詞・形容動詞の頭にやたら「ど」をつけたがるのも豊橋などの東三河の傾向です。

言葉の地域差

西三河の方言といっても、西尾では「どこ行くやー?」のように疑問詞として「やー」を多用するなど、地域によって違いがありますが、幸田町の中でも地域差はあるのです。「何か俺にくれ」を「〜くい」といいますが、坂崎では「〜くよ」といい、また、「なにせ」を「なんしょ」といいますが、岩堀では「どんしょ」といいます。「沈殿する」は「どごる」ですが、「ところる」といったり、「とぼる」というところもあります。

言葉は、生きています。言葉を発する人間も生まれ、やがて死んでいくのですから、言葉も時の流れの中で絶えず変化し、新しい言葉が生まれては消えていくのです。その変化は地域によって異なります。人の交流によって言葉は伝わりますが、高い山があれば越え難く、大きな河があれば渡り難いように、山脈や大河を境にして言葉の変化に差が生じます。それが方言であり、ある程度の範囲に共通した方言群を「〜地方の方言」とか「〜弁」とかいうのです。

尾張と三河の間に山脈や大河はありませんが、江戸時代、徳川家が尾張一国を支配し続けたことにより、三河にはない名古屋弁ができたのです。

由緒正しい標準語

「あなたの家」をこの地方では「おまんがれ」といいますよね。この「がれ」、実は古典文学の徒然草にも登場する「がり」が変化したものなのです。当時の中央（京都）で生まれた新しい言葉は時間をかけて波紋（はもん）のように地方に伝わり、古い言葉は淘汰（とうた）されましたが、ある地方では淘汰されずに残り、方言となりました。

このような方言は、京都を中心としたドーナツ状に分布していることが多く、この地方の方言が関西をとばして中国四国地方でも使われていることがあるのです。方言は、古語つまり古い標準語を起源にしたものも少なくなく、現代の共通語よりも方言のほうが由緒正しいことも多いのです。

▲稲刈りあとの田んぼに並ぶ「はざ」

農村に育まれ農村とともに滅びゆく

江戸時代は米社会といわれるように、日本のほとんどの地方は、稲作を中心とした農村でした。ですから、方言も農村の暮らしの中で育まれてきました。苗代（なえしろ）作り、代かき、田植え、田の草取り、稲刈り、稲こき、もみずり、と手間をかけてきた稲作も、近年は機械化され、刈り取った稲を干す「はざ」も、稲こきしたわらを積む「すずみ」も今や姿を消し、稲刈りの邪魔をするように時雨（しぐ）れた「ざんざ」も忘れ去られました。農村の崩壊とともに、この地方でも数多くの方言が消滅しつつあります。

ふるさとの心を訪ねよう

そんな今だからこそ、方言が見直されるはずです。方言にはここで暮らす私たちの心と心をつなぐ何かがあります。これからも「西三河の方言」で、ふるさとの心を皆さんと一緒に訪ねていきたいと思います。

▲林立する円筒形の「すずみ」

小欄は、平成5年3月に

桃の節句を前にこういう会話を耳にしました……

「おまんがれ、ぼーが生まれたげなのー」

「だがふん、あかだがん」

「ほじゃ、けっこいおひなさん飾らにゃなー」

（中略）

「あか（赤）」とは、赤ちゃんのことですが、この地方では女の子を指し、男の子は「ぼー（坊）」といって区別しています。

を掲載して以来、先回の6月で130回となりましたが、今回、すべてを振り返るわけにはいきません。今まで紹介した中から方言を選び、後半の2ページにまとめましたので、ご覧いただき、今後の小欄に乞（こ）うご期待…。

（文・じろざ）

心に響く 西三河の方言 辞典

（方言）	（意味）	（例文）	（広報掲載）
あかん	駄目だ	「まーやめとかにゃあかんて」	平成9年10月
あらーすか	あるわけがない	「ほんなんあらーすか。いつんかしまえちゃったに」	平成9年2月
いきる	蒸し暑い	「晩でもいきるで、なかなか寝れーへんわ」	平成6年7月
いざる	ずれる	「ほーきちんと並べにゃいかんだかん？ちーたーいざっとってもいーだら」	平成8年4月
いじゃ	行こう	「なんしとるだ。はよいじゃ、ちゃっとちゃっと」	平成5年5月
いね	寝相	「ふんとんいねが悪いもんだん」	平成12年3月
えーころはちべー	でたらめ	「なん、えーころはちべーなこと言っとるだん」	平成13年11月
えーまち	けが	「そげんせーよー走ると、ひっくらかってえーまちせるで」	平成5年4月
笑（え）む	ひびが入る	「（陶芸作品を）文化祭ん出さーともっただが、笑んじゃっただわ」	平成11年11月
おいでん	いらっしゃい	「ちょっとみーおいでん。この木、なんかたーへんついとるよ」	平成11年2月
往生（おーじょー）こく	困り果てる	「ふんとん往生こいたわ。道がつんじゃって、ちっともいごきゃへんもんだん」	平成13年5月
おそがい	怖い	「ツバメは、人間がおそがくないだかねー？」	平成10年6月
おとましい	もったいない	「（古くなったものを）ふちゃるもおとましいでのー」	平成5年7月

（方言）	（意味）	（例文）	（広報掲載）
おぼっこい	子どもっぽい	「あんた、おいでんやー。おぼっこいおひなさんもあるで」	平成13年3月
きーない	黄色い	「ハクサイだわ。『白い菜』って書いても、花はきーないのー」	平成14年3月
くむ	崩れる	「（豪雨で）ほぼかの道や堤防がくんじゃったげなのー」	平成12年11月
ぐろ	すみ	「道のまん中歩いちゃかんわ。まっとぐろ寄れ、ぐろ」	平成12年9月
げな	～そうだ	「ほだほだ。ソフトボール、勝ったげなじゃん」	平成21年8月
けなるい	うらやましい	「なんだん、けなるいだかん。お兄ちゃんは、まーちょい我慢しときん」	平成9年4月
こんきと	ときどき	「織姫と彦星は、どいで、こんきと行き合わんだねー」	平成8年7月
さばくる	かき回す	「あんた、なんやっとるだん。ほんなとこさばくって」	平成10年12月
さらくがいい	格好がよい	「ほれならこっちゃのほーが、さらくがいいぞ」	平成8年5月
地震がいる	地震が起きる	「ほーぼーでよー地震がいるけどが、ここらも、まーやっと来んで、きょーつけにゃな」	平成7年2月
しゃーける	つぶれる	「あれ、団子がしゃーけとるわ」	平成6年4月
じゅるい	ぬかるんだ	「やー、ほんなとこ走らんな。じゅるいで踏ん込むぞ」	平成6年1月
ずつない	苦しい	「腹がずつないだが、夏バテかやー？」	平成10年8月

特集1 西三河の方言

（方言）	（意味）	（例文）	（広報掲載）
せんしょ	おせっかい	「またいらんことして。ふんとん、せんしょだでいかんね」	平成8年3月
そこどこじゃない	それどころではない	「（戦争では）沖縄やなんそこどこじゃない、ひっどいもんだん」	平成17年8月
そそくる	繕う	「ほんなん、そそくったのでいーだ。あらすなん買わんでも」	平成20年12月
ぞぞげがたつ	ぞっとする	「オンボヤもあったもんだん、ほやー、ぞぞげがたったわ」	平成14年8月
だだくさもない	やたらたくさん	「むかしゃー、ホータルなんここらでも、だだくさもない舞っとったけんが」	平成12年7月
たるい	つまらない	「うちからきもん着て出てかにゃたるいぞ。嫁菓子も配れんし」	平成9年6月
ちみきる	つねる	「痛いなー。なんで他人のほっぺたちみきるだん」	平成8年12月
ちゃっと	急いで	「裸で狂っとらーと、ちゃっと服着らにゃ」	平成10年2月
ちょっこらちょいと	簡単に（～ない）	「こや、ちょっこらちょいとじゃできんぞ。毎日コツコツやっとかんもんだん」	平成13年9月
ちんちん	熱いさま	「そー、ちんちんにならんな。ただでさえ、あっついだで」	平成19年8月
どだいこと	随分	「ゆんべも、どだいことあっつかったのー」	平成15年8月
とったかみたか	即座	「ほんなん、急に言っても、とったかみたかにゃー答えれんわ」	平成15年6月
とも	田んぼ	「こんな吹き降りに、とも行ってどーせるだん」	平成7年7月

（方言）	（意味）	（例文）	（広報掲載）
なんご	穏やか	「正月ぐらいなんごにやらにゃ」	平成12年1月
はさげる	差し込む	「（住所の書いた紙を）ほこにはさげといただが、知れんだわ」	平成6年12月
ひずるい	まぶしい	「ひずるくてあかんわ。（キャッチボールは）まーこいでしまいにせるぞ」	平成7年10月
ひとなる	成長する	「人の子はひとなるが早いっちゅーが」	平成5年8月
ふちゃる	捨てる	「古いしめ縄、ふちゃるだね」 「ほんなんせや、罰当たるに」	平成19年1月
へぼい	弱い（弱虫）	「そこどこじゃない。ふんとん、（下の子は）へぼいでいかんわ」	平成17年4月
みやいこ	共有すること	「すげーなー。ぼーのこいのぼりは」 「ほいでも、お兄ちゃんとみやいこだもん」	平成6年5月
めっそー	目分量	「ほんなん、はからんでもねー、めっそーで分かるだわ」	平成13年7月
もとのほーろく	もとのもくあみ	「あーあ、もとのほーろくだわ」	平成20年4月
やぐい	（構造的・体質的に）弱い	「こーめーても、からどはやぐいだわ」	平成17年2月
やけずる	やけどする	「やい、火むだことしちゃーかんて。きょーつけとらんと、やけずるで」	平成22年8月
やらっせ	やってください	「こんなとこじゃなんだで、まー、上がって一杯やらっせ」	平成14年1月
らんごく	乱雑	「（花見は）あとがらんごかないで、どもならんわ」	平成10年4月

問合せ 企画政策課情報G（内線344）